

令和4年度（2022年度）第4回南区まちづくり懇話会 会議録（要旨）

- 1 日時 令和5年（2023年）2月17日（金）午前10時～12時
- 2 場所 南区役所 3階大会議室
- 3 出席者 計28名（出席者名簿のとおり）
 - ・南区まちづくり懇話会委員 11名
柴田委員（会長）、平井委員（副会長）
前出委員、村山委員、正木委員、島田委員、永井委員、堀川委員
村中委員、北岡委員、宮崎委員
 - ・事務局（熊本市職員） 17名
南区長、区民部長、保健福祉部長、総務企画課長、土木センター所長
南区管内まちづくりセンター所長（6名）、福祉課長、保健子ども課長
総務企画課職員（4名）
- 4 内容
 - （1）開会
 - （2）区長挨拶
 - （3）意見交換
「南区まちづくりビジョン」検証結果について
 - （4）その他
 - ・南区まちづくり懇話会の振り返り
 - ・令和4年度南区まちづくり推進事業実績報告
 - （5）閉会
- 5 意見交換議事録

「南区まちづくりビジョン」検証結果について

<資料1について 事務局から説明>

（宮崎委員）

区民アンケートの「満足度」は、基本目標の各取組方針について「概ねできている」と答えた人の割合ということか。

（事務局）

区民アンケートの回答は、基本目標ごとに「満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、不満、無回答」であった。その中から「どちらともいえない」と「無回答」を除き、「満足」と「やや満足」の割合を算出した。

ワークショップにおける評価については、「概ねできている」のみの割合を表記した。

(宮崎委員)

資料2ページを見てみると、「基本目標1 農と漁業を誇れるまち」の「取組方針1 次の世代に農漁業をつなぎます」は、区民アンケートの満足度は70%、ワークショップの評価は15%であり、最も乖離が大きい。まちづくり懇話会のワークショップに参加した特定の層の方々は、このような評価をしていて、区民アンケートは、南区にお住まいの不特定多数の様々な世代の方が回答しているので、このような乖離が出るのは当然。だからこそ、このようなアンケートをやる意味があると、この数値の差を見て感じた。アンケートは、ぜひ定期的にやっていただきたい。

ビジョンに具体的な数値目標がないというのは、検証をされる際、大変だったと思う。「概ねできている」などは、感情的なところにすぎないので、今後、検証をしやすくするためにも、数値的な目標を掲げるとよいのではないか。

また、全体的に情報がうまく住民の方に伝わっていないことが課題として挙げられると感じた。SNSでの発信というのは、横断的に必要だと思うので、来年度以降注力していただきたい。

(江区長)

今回、ワークショップでの評価とアンケートの評価を二つ合わせて、総合評価とさせていただいた。ご指摘のとおり、評価には乖離がある。例えば、「次の世代に農漁業をつなぎます」という目標などは、農漁業をされている方にしかわからない部分があり、ワークショップでは厳しい評価になったのではないかと思う。

熊本市全体の総合計画を、令和6年度に新たにスタートさせることになっているので、区のまちづくりビジョンについても、現計画を1年間延長することになる。市全体の方針なので、来年度は新ビジョンに向けてご意見をいただきたいと思っており、数値目標の設定も検討していきたい。

それから情報発信については、一番肝心な部分だと思っている。SNSや、市のホームページだけではなく、市政だよりを見た、回覧版を見た、という方もいらっしゃるのでは、多様な情報手段で発信していきたい。

(宮崎委員)

もし、今後新たなビジョンを作成するのであれば、基本目標も整理が必要だと思う。健康と子育てのように、似ているようで違うところもある。交通の利便性と自然環境についても、公共交通を利用することで二酸化炭素排出が減り、温暖化に寄与するということに繋がるのだが、もう少し細かく整理したほうが数値目標も立てやすいと思う。

(柴田会長)

目標の立て方はとても難しいが重要なこと。ワークショップのときに、区に担当部

署がないのに目標を立ててどうするのかという話が挙がったが、そのことも関連している。区としては触れないわけにはいかない部分だと思うので、その見直しは必要。

私はビジョンができた経緯や、数値目標を入れるかどうかで議論があったかは存じ上げないが、私が委員となった最初の年に、数値目標がないビジョンについて、議論して意味があるのか、という質問が委員から出た。そのときに、よし悪しあります、ということをお答えした。数値は目標を立てやすいしその検証もしやすい。しかし、例えば「次世代につなげます」などは数値目標を立てようがない。そこで間接的な数値を設定したり、住民の方の満足度を数値目標にしたりするということは、よくやる手法であるが、数値を達成するのが目標になってしまいがち。立てた目標が、見失われがちになってしまうことがある。数値目標の立て方も、議論を深めて立てていかないと、形骸化してしまうということが往々にして起こるので、目標の大きな柱の立て方とともに、重要な論点だと思う。

(正木委員)

コロナ禍で自治会などの行事やイベントが激減し、それが何年か続いたので、いざ行事を始めようという話になっても、子どもたちが塾に通ったり、クラブ活動をしたるようになり、声をかけても集めにくくなっている。これから先、イベントを再開しても、どのようにして人を集めたらよいか。地域によっても異なると思うが、どのように呼びかけをしたらよいものかと思っている。

(事務局)

コロナ禍以前は、学校と連携して、防災をテーマにした親子で参加できる集合型のイベントなどをやっていた。校区防災連絡会を立ち上げる時期であったこともあり、活発な意見も出ていたが、コロナによって集合型でできなくなったのは非常に残念。地震から7年が経過し、防災意識が低下している部分もあるため、もう一度集合型で親子で参加できるようなものができればと思っている。これも地域からの提案や発案があってこそだと思うので、PTAなどとも連携していきたい。

(江区長)

校区自治協議会には自治会長さんをはじめ、PTA会長さんや、小中学校の校長先生が入っておられる協議会もある。この場でしっかり議論していただくことにより、周知を図ることができると思っている。学校と連携するということは個人を呼び込むには非常にポイントになる。

(事務局)

地域のイベントや行事が開催されていなくて、子ども達がだんだん知らなくなってきているという印象を持っている。来年度のまちづくり推進事業で、そのような復活イベントを応援するような仕組みづくりができればよいと考えているので、校区自治協でも考えて、進めていただけたらとよいと思っている。

(正木委員)

新しく家を建てられた方は、イベントに参加されない方も多い。そういう方々を少しでも地域に取り込むことで、ハザードマップの活用や防災活動などにもつながっていく。1番交流しやすいのはイベントだと思うが、参加者が集まらないのではどうしようもない。お互いのつながりを作っていくべき。

(平井副会長)

富合校区のどんとやは、22地区中10地区で実施し、河川敷や田んぼで実施したところは多く集まった。もぐら打ちは、新しいアパートが多くできたところや、必要な材料が揃わない、経験者がいないようなところは実施しておらず、実施率が低かった。小学校の総合学習の時間に参加した際に、子どもたちは地域のイベントを知らないと感じた。

(柴田会長)

地域によって様々だと思うが、大きな傾向として、2~3年イベントができていないので、復活、再開に向けての動きを区としてどうサポートするかが重要。大学でも一度サークル活動をやらなくなったことで、サークルが成り立たなくなっている。次に新入生が入ってきて、先輩がいないので活動が難しい。同じようなことが地域でも起きるのではないか。活動をやめるのは理由もあったので割と簡単だったが、また動き出すのは大変なこと。おそらく1年で急に動き出すわけではないと思う。

次期ビジョンを含め、具体的な事業についても「ポストコロナ」は重要な論点である。

(堀川委員)

校区の社会福祉協議会の役員をしているが、日吉東校区では、社会福祉協議会が核になって、子供やお年寄りの行事を主催している。主に子ども食堂など、子どもの行事をするときは、必ず小学校に案内を出すのが、コロナ禍で学校とのコミュニケーションがとりにくくなり、行事もできなくなった。柴田会長がおっしゃったように、1回やめてしまうと、再開が難しいと実感している。行政から学校側に、地域と積極的に関わるよう要請していただければ、私たちもスムーズに学校を訪れることができるようになると思っている。

3年間活動していないので、備品なども使えるかわからない状態のところも多いと思う。催しをするときの補助金のようなものを出す体制を整えてもらえると、少しは始めやすくなると思う。

子どもの行事をすると、必ず親御さんが出てきて、そこに地域のお年寄りの方もお手伝いに来られたりして、子どもとお年寄りの触れ合いもうまくいくようになる。その中心となるのが、子育てネットワークという組織で、そこが機能していくと、町内から校区、そして企業との連携など、大きなイベントもできるようになるのではと思う。

(事務局)

子育て支援ネットワークについては、校区によって様々な子育て支援活動をやっているが、コロナ禍で小学校単位での活動を中止しているところもある。南区管内で行う活動については、今年3年ぶりに合同での勉強会と体験発表会を実施した。

今後また、校区単位での活動ができるように、保健師も支援してまいりたい。

(柴田会長)

資料18ページの基本目標4は健康の分野だが、区としての総合評価に「感染防止と活動の両立ができるよう、その内容や方法に変化を加えて実施していく必要がある」と書かれている。

コロナ禍で、今までできなかったことが新しくできるようになったこともある。例えば、高齢者もライングループを作って情報共有するようになった。そこで、単純に元に戻すということではなく、コロナを通じてできるようになったことと、感染防止などの正しい知識を含めて、普及啓発しながらやっていくことが重要。ただ大変な3年間だったということでは終わってしまうのではなく、それすらも生かせるような方向であるべき。できなかったイベントが復活すればそれでいいのかというと、そうではないと思う。

今回はビジョンの「評価」なので、今後どうするかということが書きにくいとは思われるが、そのような方向性も少し書き足していく必要があると感じた。

(島田委員)

私は、認知症サポーターのボランティアをやっており、週に1回脳の健康教室が開催されている。地域包括支援センターささえりあの方々が、各家庭に参加の勧誘に行かれており、近所で数十年孤立されていた方を1年ほど積極的に誘いに行かれた結果、毎週欠席なく参加され、楽しく過ごされるようになった例がある。

基本目標4の「みんなが健康で元気なまち」については、比較的よい評価になっているので、そういった努力が実ったのかなと思っている。

(永井委員)

検証結果についてはよく取りまとめてあると感心した。柴田先生もおっしゃったように、行政の立場から課題解決のことを書くとなると難しいと思うが、大事なことだと思う。

私は、自然環境の部門で参加しており、環境保全組織で仕事をしているが、平成4年から、校長会や評議員なども務め、学校との連携を図っている。長年、炭焼きや食の伝承活動、文化活動、出前講座などを実施し、そのたび学校には何回も行っている。コロナ禍でも、小中学校での活動や体験学習会には行っていた。やはり長年の経験と信頼関係によるところは大きく、継続は力だと思う。

ビジョンの検証から課題がまとめられたと思うので、その解決策を一つでもやってみればよいと思う。

(村中委員)

青年会議所では熊本のプロスポーツを応援するという事で、市民が一体となって盛り上がっていくようなまちづくりができたらと考えている。アクアドームなどのスポーツ拠点があるので、全体を巻き込んでいけるような仕組みが必要だと思う。

資料12ページ本庁が主体というところで、城南スマートインターが殺風景という意見が出ているが、外観も確かに必要だが、利便性も必要だと思う。例えば、なぜ利用者が少ないのか、利用してもらうためにはどうしたらよいか、といった議論が必要。利便性などのバランスを考えた上で、やはり雇用が人口流出を抑える一つの鍵なので、スタートアップ支援なども必要になってくると思う。

(村山委員)

先日、熊本市の区制10周年記念のイベントに参加したが、皆さんの話を聞いて、自分たちのまちづくりの参考になったと感じた。資料に塚原古墳公園の話が出ているが、色々な方を巻き込んで、イベントなどをしていけたらよいと思う。

(前出委員)

資料12ページの花や緑があふれるきれいなまちづくりに関連して、私は、市のみどりの検定1級に合格し、緑のマイスターの認定を受けた。認定後に、天明中学校の生徒と一緒に花植えをするなどの活動を行った。今後も要請があれば、活動を続けていきたい。また、「飽田の森を育てる会」では、南阿蘇の国有林を80年間借用し、植樹などの活動をしている。コロナ禍以前は、飽田中の2年生の生徒と一緒に行き活動していた実績がある。

(柴田会長)

みどりのマイスターや防災士などの資格を持っている方は、地域にたくさんいらっしゃる。もっとたくさんそういう方に活躍していただく場が必要だと思う。

(北岡委員)

学校での花植えの話が出たが、学校では校長先生が代わると花づくりに対する熱心さも変わってしまうのが現状。南区のまちづくりの観点からも、先生方と共有してもらえる体制を作れないものかと考えている。

(平井副会長)

資料13ページに関連して、乗合タクシーの見直しがされたと思うが、その後利用者の状況はどうか、お聞かせいただきたい。

(事務局)

天明地区では11月から新たな乗合タクシーの実験を始めた。利用者は順調に伸びており、会員登録数は、当初の280名程度から400名に達するところまで増えている。今後は、利用時間や停留所の見直しを行い、利便性の拡大を図り、引き続き実験

していきたいということで本庁関係課等と調整している。実験期間は2月中旬までの予定であったが、3月いっぱいまで延長して実験を継続することになっている。

今回は、家から歩いて行けるごみステーションを基本に停留所を作っており、日頃から買い物をされるスーパーや、病院等を目的地に設定している。実験の検証を踏まえて、今後広げていきたいということで主務課も考えており、あわせて区においても、交通の利便性の問題を解決できたらよいと考えている。

(柴田会長)

委員の皆さんからは、大所高所からのご意見がたくさんあり、概ね検証資料をよくまとめていただいたという感想であったと思う。区としての総合評価の部分に、こういう方向性が必要という内容を充実させると、よりよいものになると感じた。懇話会の資料としてこのようなものができたが、今後、公表していくことになるのか。

(江区長)

5区全体の話であり、現時点ではまだ決定していない。市全体の総合計画と一体的に考えていくことになると思われる。

6 その他

南区まちづくり懇話会の振り返り

<各委員から任期中を振り返りひと言>

令和4年度南区まちづくり推進事業実績報告

<資料2について 事務局から説明>